

平成 20 年 7 月 1 日

ソフトウェア・キーボードウェッジ RS-receiver Lite バージョン 2.0 を開発し、7 月から販売開始。Vista に対応すると共に、RFID リーダやコードレスリーダ用の機能を追加。

自動認識システム開発のアイニックス株式会社（東京都目黒区大橋 1-2-6 電話 03-5728-7500 代表取締役 平本純也）は、ソフトウェア・キーボードウェッジ RS-receiver Lite 「アールエス・レシーバライト」バージョン 2.0 for Windows を開発し、7 月 14 日から販売します。

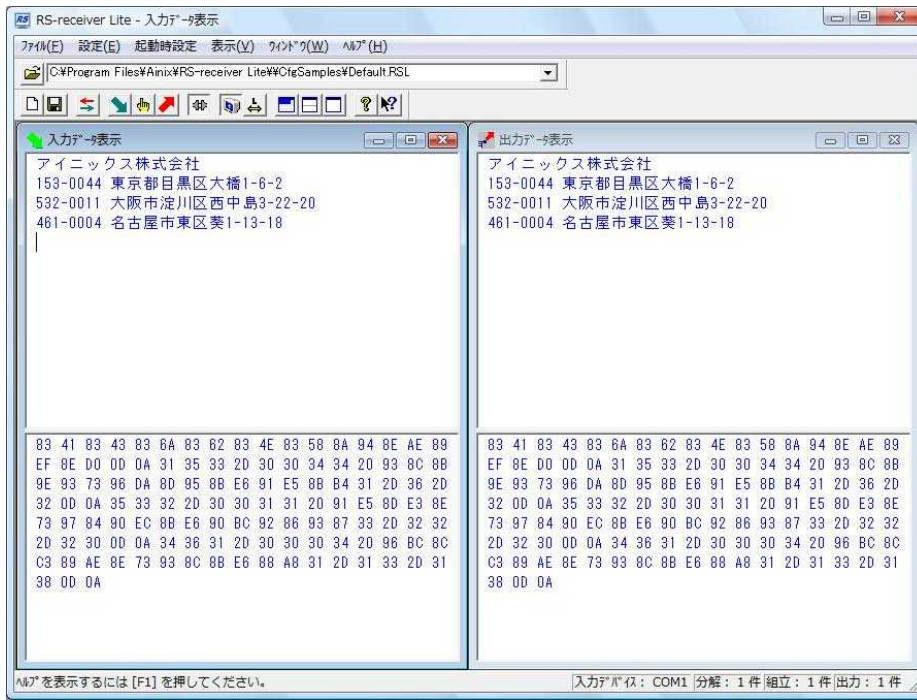
RS-receiver Lite は、RS232C インターフェースなどのシリアルデータをキーボードデータに変換し、Windows アプリケーションのアクティブ画面に入力することができるデータ入力ソフトウェアです。バージョン 2.0 では、Windows Vista に対応すると共に、RFID リーダに便利な二度読み防止機能、コードレスリーダに便利な仮想 COM 再接続機能をサポートしています。バーコードリーダ、RFID リーダ、磁気カードリーダ、OCR リーダ、計測機器等のデータ入力ソフトとして最適です。

近年、周辺端末機器は、USB キーボードインターフェースで接続されることが多いのですが、2次元シンボルのように大容量データで、しかも、制御文字を入力したい場合は、RS232C が使用されます。このとき、データ入力に一般的に使用されている Sendkeys ステートメントでは、全角括弧や全角チルダなどの特殊文字が入力できません。そこで、RS-receiver Lite は、バーチャルキーモードもサポートしました。また、セパレータなどの制御記号も入力できませんのでキャラクタモードもサポートしました。前者は、入力データをキーボードデータのようにエミュレーションするモードで、後者は、入力データをキャラクタとして画面に直接入力するモードです。

RFID リーダは、検知範囲の境界に RF タグがある場合、二度読みしてアプリケーションが誤動作する場合があります。そこで、これを対策するために二度読み防止機能をサポートしました。二度読みを防止する時間は、任意に設定できます。また、コードレスリーダで使用されるブルートゥースは、通信エリアの外に出るとドライバーによって作成された仮想 COM ポートから切り離され、再び通信エリアに戻っても通信できないことがあります。そこで、仮想 COM ポートに再接続する機能もサポートしました。これらの機能は、他のデータ入力ソフトにない便利な機能です。

この他、RS-receiver Lite は、データのモニターや保存する機能を持っています。また、不要な文字列を削除する機能、任意の文字列を付加する機能、カンマをタブに置き換えるなどの文字列置換機能、先頭より n バイト目まで削除し次から m バイトを抽出する機能なども備えています。

RS-receiver Lite バージョン 2.0 の標準価格は、9,800 円（税別）です。そして、コンピュータ流通チャンネルや自動認識機器業界チャンネルによる代理店販売と自動認識機器メーカーに対するライセンス提供により、初年度 3000 本の販売を計画しています。



データモニタ画面